

2月27日 第15回職員実践・研究発表会



3月号

平成 31 年 3 月 1 日発行  
 【発行者】〒168-8510  
 東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
 社会福祉法人 浴風会  
 京極 高宣  
 TEL (代表) 03-3334-2101  
 http://www.yokufukai.or.jp/  
 【編集者】露口 長  
 【印刷所】株式会社サイド・ビー

# 地域社会に求められる 社会福祉法人としての役割を果たす

（都内、全国の社会福祉法人の鑑としての期待）

東京都社会福祉協議会 会長 青山 侑



浴風会は、我が国の社会事業の創設期より新規分野を開拓し、その基礎を築かれ、今もなお病院、特別養護老人ホームをはじめとする様々な福祉サービスを地域住民に提供するなど、活発な事業展開を進めておられます。とりわけ近年では「高齢者保健医療総合センター」も開設され、その事業経営のあり方、介護福祉の実践は、都内の他の社会福祉法人の範となっております。また、全国の福祉実践の発展、福祉人材の成長に欠くことができない存在でもあります。特に「認知症介護研究・研修東京センター」は福祉実践の現場に認知症介護の専門家が育つよう取り組んでおられ、それにより多くの人材が育成されてきています。

改正後の社会福祉法では、法人運営のガバナンス強化だけでなく、社会福祉法人が有するノウハウを生かして、地域住民の抱える課題解決のための公益活動を行うことなどが要請されています。都内では、区市町村ごとに法人のネットワークを構築して、地域ニーズに協働して対応できる仕組みづくりを進めています。浴風会ではすでに、認知症予防や介護予防の取組み、さらに地域における生活支援の担い手の養成などの地域社会に向けた事業に取り組んでおられており、法人の経営理念にもあります「地域との協働と社会貢献」を具現化し、都内の地域公益活動推進のリーダーとして、その豊富なノウハウ、専門性を生かした取組みを進めていかれることが期待されます。

ところで、本会との関わりでは、1993年、記録的な冷夏の影響から、国内米の供給が不足し、タイ米が急遽輸入されたことは、記憶されています。施設では多くの利用者が生活されていますので、お米はなくてはなりません。本会に「福祉施設のために」と多くのタイ米が寄付されましたので、浴風会に一時的に保管スペースをお借りし、都内の施設の方々に車でタイ米を受け取りに来ていただくといったご協力をいただいたことがありました。また、今なお本会が行う東京善意銀行の事業においても、様々なご配慮をいただいていることにも大変感謝しています。

この他、私は、10年ほど前のことですが「これからの福祉医療施設の将来像について」の勉強会で浴風会にしばらく通ったことがあります。恵まれた環境と充実した施設が鮮明に残っています。25年ほど前には、東京都の高齢福祉部長でしたが、土日に予告なしに「こんにちわ。施設を見学させてください」と職名も乗らず見学させて頂き、とてもきちんとした介護が実施されています。浴風会の職員の皆さまに、大変お世話になりました。

# 「生涯にわたる豊かな学びを支えるために」

杉並区教育委員会事務局

生涯学習推進課長 本橋 宏己



テレビの時代劇が全盛だった昭和 40 年代、毎週水曜の夜 8 時 “男だったら一つに賭ける” の主題歌に乗って颯爽と登場する大川橋蔵と話しても「銭形平次」を思い浮かべてくれる方も少なくなっていました。この番組の原作「銭形平次捕物控」を書いた野村胡堂（1882～1963）は、浴風会のとなりに住んでいました。井の頭線高井戸駅から徒歩 5 分、敷地 800 坪の自宅は、夫人のハナが、「銭形の親分を買っていただいた」という、夫妻にとってはじめての持ち家でした。胡堂自身も座談会の中で、銭形平次が百話になったころ、その印税でこの家を建てたと事情を明かしています。

生涯、庶民派を貫いた胡堂は、ある日、浴風会の入居者から和歌の選評を頼まれ、一度は辞退しましたが、熱心な願いに個人の感想を述べるということで詠草をあずかりました。選評をするの間もなく、頼みに来たお年寄りが、両手に抱えきれないほどの見事な菊の花束をお礼にと持って来ました。話に聞くと、花好きの仲間が丹精して作った菊で、その中の一番綺麗なものをお礼に差し上げたいということだったので。胡堂は、この時のお礼ほど嬉しかったものは、後にも先にもなかったと

後に述懐しています。

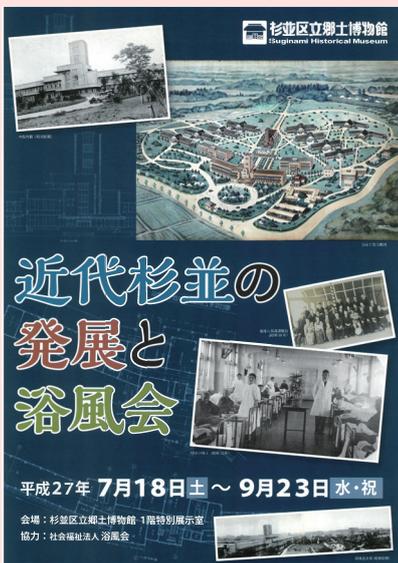
前置きが長くなりましたが、“高齢者福祉施設のさきがけ”として長い歴史を持つ浴風会には、このような話が数多く残されています。杉並区立郷土博物館では、平成 27 年度企画展「近代杉並の発展と浴風会」に続き、本年 3 月 9 日（土）～5 月 6 日（月）まで、企画展「すぎなみの地域史Ⅱ 高井戸」の中で、浴風会を取り上げさせていた

だくことになりました。杉並区は、昭和 7（1932）年に和田堀町・高井戸町・井荻町・杉並町の 4 つの町が合併して誕生しました。郷土博物館では、杉並区を 4 つの地域に分け、それぞれの地域の歴史や文化について掘り下げて展示する企画展を、地域史シリーズと銘打ち、昨年度の「和田堀」に続き、第二弾として「高井戸」を紹介します。また、3 月 24 日（日）には、社会教育活性化支援プログラムとして、浴風会のご協力を得て、「すぎなみ再発見！建物語り・昔語り」浴風会の歴史ある建物見学と車座トークを現地開催させていただきます。東京都選定歴史的建造物に指定されている浴風会本館は、東京大学安田講堂も手がけた内田祥三の設計で、「白い巨塔」をはじめ多くのドラマのロケ地としても知られる貴重

な建物です。

人生 100 年時代を迎えようとしている今、生涯にわたる豊かな学びを支えるために、杉並区教育委員会では、多様なかわり・つながりの中で学びあい、学び続けられるような様々な取組を行っています。

今後とも、杉並区における生涯学習の推進に、さらなるご協力をお願いできたらと思います。



平成 27 年度企画展  
「近代杉並の発展と浴風会」



平成 30 年度企画展  
「すぎなみの地域史Ⅱ」

## 老健くぬぎ雑感

老健くぬぎ嘱託医

曾我 紘一



私が老健くぬぎにお世話になってちょうど

4年を迎えました。この間、老人保健施設は地域包括ケアシステムの構築・リハビリテーションの推進・在宅復帰支援機能の強化がはかられてきました。また、昨年12月から厚生労働省は介護サービス現場の改善についての検討を開始しました(介護現場革新プラン)。

介護老人保健施設は1986年に老人病院と特養の中間施設として誕生いたしました。今日では地域包括ケア強化法によって在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となり、リハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割を担う施設であるとされています。私は将来の老健は訪問診療・訪問看護・訪問介護・訪問リハビリを充実した、多機能型施設として変化していくのではないかと思っています。

**介護現場革新プラン**では、介護職員の専門性、ロボット・ICTの活用などが検討されています。この拙文が出るころには議論の取りまとめが行われているでしょう。専門性(プロフェッション)については介護技術の能力にとどまらず、自律性・説明責任・利他主義などが要請されます。職員のみなさんには一

層の切磋琢磨を期待しております。

**専門性**に関して、小さなことかもしれないがひとつだけ指摘しておきます。留意したいのはフットケアです。常に注意していないとケアが行き届かないのですが、重要な看護職・介護職の職務であることを認識していただきたいと思っています。

**ロボット・ICTの活用**では、省力化や夜勤の効率化が検討されます。離職率を低下させることも重要な課題です。一例として、「介護労力軽減型自動寝返り支援ベッドの開発支援」です。社会福祉法人悠愛会では自力で寝返りできない入所者と介護者を救う目的で研究を進めています。このようなパイロット的な実証研究が推進されることは非常に大切なことです。浴風会でも積極的に検討・実践されるよう期待しています。

今後、老健の評価としては、通所リハビリ、多剤投与の是正などがありますが、最も重要なのは**介護の質の評価**でしょう。ADLの維持や認知症の重症化を遅らせるには、「自分でできることは自分でしてもらう」という、持っている能力を最大限発展

させていく視点に立った専門性の高い介護を実践していく施設が質の高い老健であるといえます。

最後に**認知症**について考えてみます。国では5月を目的に認知症施策推進大綱をまとめ政府方針へ反映させるとのことです。認知症では進行すると職員との意思疎通は「好き・嫌い・いや」という情動的なコミュニケーションが主となり、本人の意思よりも家族や周囲の意向が優先されがちとなっていきます。家族は「本人にとって最も望ましい」と考えることを行っているように思われます。このこと自体は特に問題はないのですが、「好き・嫌い・いや」という意思の表現は個人個人の能力として尊重されるべきものであるとされています(大井玄著「呆けたカントに理性はあるか」)。

私の臨床現場での経験を振り返ってみますと、大井玄氏(東京大学名誉教授)の教えをどのくらい実践できたのか疑問であり、経験の乏しさを痛感しています。身振り手振り、表情の変化を見逃さずに看護や介護に活躍されますよう期待しております。

# 浴風会の動き (2月)



普通救急救命講習会 (2月 15日)

## 【本部事務局】

- 1日 東京医科歯科大学看護科学生13名見学。
- 5・5・6日 「法人内部監査」実施。
- 8日 「ケアワーカー正職員登用試験実施」7名。
- 12日 都政を革新する会4名見学。
- 15日 「普通救急救命講習会」職員22名参加。
- 27日 「第15回職員実践・研究発表会」開催。(浅井)

## 浴風会ケアスクール

### Cafe オレンジリボンウッド

- 5・12・19日 千代田区介護講座「かがやき介護スクール基礎編」参加者.. 5日25名、12日24名、19日29名。講師.. 國安眞理氏、(職員) 渡邊、服部。
- 13日 「よくふう語ろう会 (認知症介護家族会)」参加者14名。
- 16日 特別区職員互助組合介護講座「働きながらできる家庭介護」すぐ

に役立つ介護のコツ」参加者21名。講師: 関口久美子氏、田中義行氏、(職員) 小林、井関、佐藤。

22日 Cafe オレンジリボンウッド開店。来店者71名、今回は3月11日(月) 本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コーヒの他素敵な小物の販売と、折り紙などを一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。(扇野)



## 【老人福祉事業】

### 浴風園 (養護老人ホーム)

- 1日 「節分会」を開催。年男年女の皆様に記念撮影を行い、鬼に扮した職員からは皆様一人一人へ福豆をお渡ししました。
- 28日 来月開催されるクラブ作品展示会へ向けた作品作りが行われています。絵画や陶芸など様々な作品が仕上がりに、ホール展示へ向けた準備が進められています。(宮崎)

### 松風園 (軽費老人ホーム)

1日 「節分会の集い」開催。10人の年女・年男のみなさまに袴を着ていただき、ご長寿をお祝いするとともに、その幸運を分けていただきました。和太鼓クラブのみなさんによる力強い太鼓の音を合図に、職員扮する青鬼、赤鬼が中庭に登場すると、みなさんが豆をぶつけて邪気を払いました。その後

は和菓子とお茶で歓談。豆まきの思い出などを話しながら、たのしいひと時を過ごしました。

8日 「針供養」を行いました。神棚を「松風神社」に見立てて豆腐をお供えし、利用者みなさまに、使えなくなった針を刺していただきました。一般家庭では行われることが少なくなりましたが、針仕事を長くなさっていた方も多く、厳粛な思いで針を刺さっていました。(宮中)

## 浴風会ケアハウス

1日 毎年恒例の「節分会」を開催。豆をまいて今年一年の無病息災を祈願しました。

19日 今回の「歩こう会」は深川江戸資料館と清澄庭園に行きました。多少遠くても楽しいのが歩こう会の良いところです。



22日 「浴風会ケアハウスから地域へ発信! 知恵袋講座」と題し、古典文学研究者として活躍されているご利用者を講師として、区民向け講座を開催しました。非常に多くの方々のご参加を頂き、大盛況となりました。(限本)

## 【介護保険事業】

### 南陽園 (特別養護老人ホーム)

3日 「節分会」を開催。鬼に扮した職員めがけ「鬼は外、福は内」と豆をまき厄払いをしました。

17日 「デザートバイキング」を行いました。ケーキやプリン、チョココレートなど15種類から3〜4種類を選んでいただき、美味しくいただきました。

2月から3月にかけて、浴風会病院の医師や外部より講師をお招きして、「看取り介護」の勉強会を行っています。ご利用者の尊厳を守りながら施設で最期を迎えるためにどのように支援していくのかを考える良い機会となっています。(丸山)

## 南陽園在宅サービスセンター (認知症対応型通所介護)

当サービスセンターでは、法務省が定めた保護観察中の人たちの社会貢献活動を受け入れています。社会の役に立つ体験を通じて、人の役に立てるといふ感情や社会のルールを守る意識を育み、立ち直ることを目的としたものです。

保護司と保護観察官が付き添い、お客様と一緒にレクリエーション等の活動に参加してもらっています。今年度は6名受け入れており、当センターの社会貢献活動として、引き続き協力していきます。(徳増)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

◎電話 03-3334-2743 (徳増・工藤)

## 第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

3日 「節分」を行ないました。鬼に扮した職員めがけ「鬼は外、福は内」

と、皆さん大きな声で元気良く豆をまき、今年一年の無病息災を祈りました。

15日 富士見丘中学のボランティア活動では、ご利用者と一緒に「貼り絵」を行いました。

### 第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

2日 「節分会」を行いました。年女の利用者様にご協力いただき、全員で豆を撒き、職員が扮した鬼を退治しました。

中旬からは折り紙でお雛様を作りました。(尾滝)

★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせは随時受け付けています。

◎03-3334-2140

### 第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

1日 「節分会」を開催し、職員が鬼に扮して各階を回りました。「鬼は外!福は内!」元氣な掛け声がこだまし、「豆が飛び交いました。豆攻撃に疲れ果てた鬼は降参をして退散。楽しい節分会になりました。



27日 「第15回浴風会職員実践・研究発表会」が浴風会コミュニティホールにて開催され、今回は「人生輝

き続けたい (キラリ・ホットなあなたを応援します) 5階フロアの取り組みを発表しました。(谷口)

### グループホームひまわり

3日 「節分」。鬼は外!福はうち!と元氣な掛け声と共に豆を投げ、鬼と一緒に邪気も追い払いました。おやつでは恵方巻に見立てたロールケーキを皆様に美味しくいただきました。

14日 「チョココレート作り」。バレンタインデーにちなんで、フルーツに溶かしたチョコをかけて食べました。甘いチョココレートに大満足でした。

25日 「おでんの日」。おでん作りを手伝って頂きました。ゆで卵の殻剥きに悪戦苦闘されることもありましたが、出来上がったおでんを、自ら選んでよそわれ喜ばれていました。(村下)



### 【地域サービス事業】

#### 地域包括支援センターケア24高井戸

ケア24高井戸では27年度から「エンディングノート」をテーマに家族介護教室を開催しており、医療との関わり方は関心が高いテーマでした。

昨年、厚生労働省は「ACP:アドバンス・ケア・プランニング」とし、もしもの時の為にあなたが望む医療や

ケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い共有する取り組みをすすめています。今は更に普及・啓発をすすめるために、「人生会議」と愛称で呼ぶことになりました。

家族関係や近所づき合い等は、昔とは随分違ってきます。これからどうしていくのか自分の問題であり地域の問題として考え、地域づくりをしていければと思います。(尾関)

#### 杉並区地域包括支援センター

ケア24高井戸

◎電話03-3334-2495

### 【病院事業】

#### 浴風会病院

現在インフルエンザが流行中です。当院においても感染対策を強化しているところで、外来患者様、ご面会の方にはマスク着用のご協力をお願いいたします。また、感染予防の為に十分な手洗いとうがいをお願いします。



◎03-3332-6511 (代表) (中澤)

### 老健くぬぎ (介護老人保健施設)

7/9日 3階デイケアでは「節分」の行事を行いました。鬼のお面に豆を投げ、鬼退治をしていただきました。



8/15日 2階入所フロアにて書道ク

ラブを開催しました。昨年秋より月2回ほど行っておりませんが、ボランティアの先生の指導で力強い字を書かれています。

22日 ボランティアによる恒例の「フルートコンサート」を開催しました。毎月のコンサートとなっておりませんが、入所者の皆さんは楽しみにされています。

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症も少し落ち着いてきたようですが、高齢者は抵抗力が弱く感染しやすいため、施設内でも感染症対策を継続しております。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

◎03-5336-7701 (代表)

◎03-5336-7734 (入所)

◎03-5336-7704 (デイケア)

### 【研究・研修他】

#### 認知症介護研究・研修東京センター

1日 第3回後期認知症介護指導者養成研修 (1/21開講・23名修了)

4日 AI認知症ケア研修会

13日 3センター管理運営会議 (東京駅近郊)

15日 第2回認知症デイケア研究フォーラム (25名参加)

18/22日 第2回認知症介護指導者フォローアップ研修 (13名修了)

25日 韓国議員28名、公務員研修の一環で視察来館 (村上)



# つなげたい浴風会の今②

## 特別養護老人ホーム 南陽園

「困った時の浴風会さん」という存在に  
主任生活相談員 友部貴弘

「いつも困った時の浴風会さんで申し訳ないんですが、今日からお部屋空いてませんか？」日頃ケアマネジャーさんから当施設に寄せられる、緊急ショートステイのご相談例です。「介護をしているご家族がケガをしてしまって…」「ご家族が急に田舎に戻らないといけない用事が出来てしまって…」「ご本人が圧迫骨折してしまって動けないんですが、入院もできなくて…」「この気候の中エアコンが壊れちゃって…」日常生活にハプニングは付き物であることを実感します。

南陽園は定員254名(内併設ショートステイ定員12名)、区内最大規模の従来型特別養護老人ホームです。介護が必要な方に、日常生活のお世話や機能訓練、健康管理等を行い、明るく温かい介護をモットーにご利用者の生活を支えています。

長期のご入所とは別に、ショートステイと呼ばれる短期間のみのご利用も随時お受けしています。ご家族がお家を空けなければならぬ、将来的に施設入所を考えているので慣れておきたい等、ご利用いただく理由は実に様々です。通常は、毎月初めに2か月後のショートステイのご予約をお受けしているのですが、冒頭のように急にサービスが必要になるのも珍しいことではありません。どこかすぐに利用できるサービスはないか、準備をどうしたらよいか、体調も不安…緊急にサービス調整が必要となつ



### 施設概要

類型：特別養護老人ホーム  
 設立：1971年  
 定員：254名  
 (内ショートステイ12名)  
 対象：介護が必要なお利用者に日常生活上の介護を提供する施設です。  
 入所…原則要介護3以上の方(やむを得ない事情により、特別養護老人ホーム以外での生活が著しく困難と認められる要介護1、2の方)  
 ショートステイ…要支援、要介護認定を受けている方

た時のご家族、ケアマネジャーさんのご苦労や大変さは想像に難くありません。そんな時こそ、3つの特別養護老人ホーム(定員計632名)があり、敷地内に売店や理美容室、病院も併設されているという当法人のスケールメリットを最大限に生かすことができる場面ではないかと感じます。これからも地域の中で、「困った時の浴風会さん」と頼っていただける存在であるために、緊急のご相談にも可能な限り対応したい。それが社会福祉法人としての役割であると考えています。何かの際には、どうぞお気軽にご相談下さい。もちろん、特に困りごとがない時でも自由にお越しいただき、当法人を身近な存在に感じていただくと幸いです。



### 編集後記

日脚が伸びて、陽気も暖かくなってまいりました。春はもうすぐです。さて、今号にご投稿いただいた両氏をご紹介します。

青山侑氏は、東京都において高齢福祉部長や副知事を歴任され、現在明治大学公共政策大学院教授。当会においても平成16年から18年にかけて設置された「発展計画委員会」の委員として数々の助言をいただきました。

また、曾我紘一氏は、精神科医師で、新潟大学から厚生省に移られ、要職を務められた後、関東信越地方医務局長を最後に退官され、縁あって「老健くぬぎ」の嘱託医としてご尽力いただいています。

なお、先月号から「つなげたい浴風会の今」の連載を始めました。当会では6万平米を超える敷地に各種の施設・病院等が活動しており、一日あたりの利用者は約2300人、従事者は約860人(常勤換算)です。そのような法人が日ごろ、どのように考え、どのような活動をしているのか現場から発信いたします。読まれてご感想をお持ちの方は、どうぞ編集部にお知らせください。(つ)

### ご芳志

平成31年1月16日から2月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。ありがとうございます。

〈金品・物品〉

●本部

森 莊祐様、宮沢 郁子様

●各施設

樋口 勝様

大形 進様

渡辺 寛様

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/